



和歌秘笈抄

古今閃照書

全

伊地知文庫
文庫20
301



あふんだたもろく車とさくく霜と報と云
くまうらうらうらう

三 赤も白も乱るるをたてし由りかたをまじりて

よもやうな事なすにせむいふたは信く

よもやうな事なすにせむいふたは信く あがり

よもやうな事なすにせむいふたは信く

よもやうな事なすにせむいふたは信く

五 任持年一もあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

六 くまうらうらうらう

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

七 免書ありし者は免書ありし者なり 行年

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

八 免書ありし者は免書ありし者なり 行年

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

十
よ
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

はなつゝる舟

舟舟も之舟舟もあつゝる舟舟の舟舟の舟舟
是は舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟の舟舟

ゆがもきねえ 仙人の薬をするおらら
—と云之書もい梅もささくお栗又ふ
心仙人のこころをさしたらぬいふおら
たしとるおら

二 燕昭王招涼之舞當汝月自得

才をれいささきは月也を涼し舞ひくさる
燕昭王の玉を暑れ時め心く人を涼
くかろく之玉もあめ月もさなり
二 鶴鶴北月上教片之紅統 残り
あつといふおらら 梅もささく
鶴鶴といふおらら 梅もささく

風もくさくさかれはもあはるは秋
あまの心もはあはるは秋
四 暖泉 鬼冬草青

冬くれは霜くれぬあまの月あはるは秋
暖くあはるのあはるは秋
こいふまはるは秋

五 首為鷺身奮今作春時高

思ひいふはあはるは秋
あまの心もはあはるは秋
こいふまはるは秋
こいふまはるは秋

六未及暮景蜉蝣之世無常

いかについでに... ぬりあまを
うきうきとまておきまて夕に死す
これみ世のこころれまゝにたると

七十二月 吳石

正月 むつこ

二月 まいあま ちかまゝにまて

三月 やよい

四月 うらら

五月 うらら

六月 みあつこ

七月 やつこ

八月 ちんちん

九月 ちんちん

十月 ちんちん

十一月 ちんちん

十二月 ちんちん

正月 ちんちん

二月 ちんちん

十月 神正月

十一月 霜月

十二月 志月

又秘流若月

正月 正月
二月 正月

三月 正月

四月 正月

五月 正月

六月 正月

七月 正月

八月 正月

九月 正月

十月 正月

十一月 正月

十二月 正月

八月 とういふ月

まろくすういふは月打つて海ちう遠い声な海

九月 いろどる月

常盤山いろり月あなを飾さう決つらうすれ

十月 神あり月

四山をかろあまをうけあはす神あり月 たひん

十一月 霜こもれ月

霜 霜こもれ月あなを飾さう決つらうすれ

年らうい月 十二月

身のとあ年らうい月いし重縁す約は又松の影 影

是あこああう人あか合て次十二月の夫あ

は笑をともちてさあ娘若をい作い思を
もいさういあうたのいあうらああ世あ人
是可秘い

短い年のい

りあのみ	まねからあま	思ひあ	秋方らひ
あまのあ	ころの時あ	あはれ	もいあ
あまのあ	あまのあ	あはれ	人あ
わろあ	はなをえ	あはれ	思ひあ
いろうあ	あまのあ	あはれ	あはれ
うあま	あまのあ	あはれ	あはれ
あまのあ	あまのあ	あはれ	あはれ

新列 山出流 二之七 白くは
 在るも ありてん 三之五 今より七
 黒澤丸 口書丸 四之六 ありてん
 勢有里 七之五 庭中丸 立やとて
 白丸丸 夜丸丸 八之四 今より七
 おん丸丸 丸丸丸 九之三 今より七
 丸丸丸丸 丸丸丸丸 十之二 今より七

九 旋取可

十 詠諧 亦可也

君よりん女は出れ枝葉烈と非有射海海津と
 心は好田高とれ何事とてはかたかた
 心

和苑抄中

蔣源	富草	筆及三虫	東路子
宇都妙	鳴棹	翫鷹馬	杏帛
假童	萸丹	更居風	漆漆
洵出	納泉	角挂	依波
遠近	假初	黑白	浮見
野村人	冬衣	針衣	水鷲
過羅	小箇	同半櫓	宮袖
急之羅渡船	留鳥	玉回	宿谷
十之虫	箴須	枕神	玉柏
小之江小島	源指	榆津菖	御波傾
			長茂
			貞原

かたはあひめたる女にいと我有所(い)と
よひかれん船めあつて村籠め東(東)の(南)方
西(西)北(北)の(東)の(南)方
古里(古)の(東)の(南)方
おと(お)の(東)の(南)方
い(い)の(東)の(南)方
吾(吾)の(東)の(南)方
来(来)の(東)の(南)方
り(り)の(東)の(南)方
浦(浦)の(東)の(南)方
り(り)の(東)の(南)方

て(て)の(東)の(南)方
年(年)の(東)の(南)方
款(款)の(東)の(南)方
れ(れ)の(東)の(南)方
そ(そ)の(東)の(南)方
お(お)の(東)の(南)方
嫁(嫁)の(東)の(南)方
漢(漢)の(東)の(南)方
志(志)の(東)の(南)方
廿(廿)二(二)年(年)の(東)の(南)方
以(以)時(時)の(東)の(南)方

十六
を丹の猿人といふぬらんかたのさかまき
いりかたといふて類日しむるに

十七
あつらんかたなり
あつらんかたなり

十八
あつらんかたなり
あつらんかたなり

十九
あつらんかたなり
あつらんかたなり

二十
あつらんかたなり
あつらんかたなり

二十一
あつらんかたなり
あつらんかたなり

二十二
あつらんかたなり
あつらんかたなり

二十三
あつらんかたなり
あつらんかたなり

二十四
あつらんかたなり
あつらんかたなり

水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに
こもるるはれに

^{ホ七} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ八} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ九} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十一} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十二} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十三} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十四} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十五} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十六} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十七} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十八} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ十九} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十一} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十二} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十三} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十四} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

^{ホ二十五} 水も流るるはれに流るるはれに流るるはれに

廿三
りりぐん蘭乃来らむ *Surabaya* 人
はしこあまはま *Sourabaya* 島

かきく *Sourabaya* 海は 巨千 *Sourabaya*
る中 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* の所 *Sourabaya* 程なる
お *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島

廿四
は 衣 *Sourabaya* 袖 *Sourabaya* 枝 *Sourabaya*
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島

廿五
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島

廿六
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島
か *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島 *Sourabaya* 島

廿七

よきことあり

北九 ^{北九} ともなふにさかすかすのまはるる

早 ^早 たまふとて相をみる

あ ^あ らまふにさかすかすのまはるる

早 ^早 ともなふにさかすかす

清 ^清 美のまはるるまはるるまはるる

早 ^早 こゝにまはるるまはるる

ち ^ち りまはるるまはるる

早 ^早 こゝにまはるるまはるる

早 ^早 こゝにまはるるまはるる

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

よきことあり

平七 高野宮の事

平八 高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

平九 高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

平十 高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

平十一 高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

平十二 高野宮の事

高野宮の事

高野宮の事

日本記の事あり

カ 雲の如き野原に
夕陽の紅霞の如く
霞の如き野原に

五 津路の如く
あけの如く

あけの如く
あけの如く
あけの如く
あけの如く

六 ちやうど
あけの如く

あけの如く
あけの如く

七 けりあけの如く

あけの如く
あけの如く
あけの如く
あけの如く
あけの如く

八 雲の如き野原に

あけの如く
あけの如く

あけの如く
あけの如く

あけの如く
あけの如く
あけの如く

わしこそはつとていふに
九山はつとていふに
十表はつとていふに
十一山はつとていふに
十二山はつとていふに

歎部

十一山はつとていふに
十二山はつとていふに
十三山はつとていふに

乃をよとていふに
十一山はつとていふに
十二山はつとていふに
十三山はつとていふに

十三山はつとていふに
十四山はつとていふに
十五山はつとていふに
十六山はつとていふに
十七山はつとていふに
十八山はつとていふに
十九山はつとていふに
二十山はつとていふに

九二六井川いせは... 橋を云く... 雑部

雑部

たさ方とい... 由... ま... 女... 其... と... 常... 七...

ら... い... る... あ... あ... い...

富士十石 他本

藤山嶽 鳴澤高根 常盤山 麻山

二十山 三重山 新山 見出山 二十山

神路山

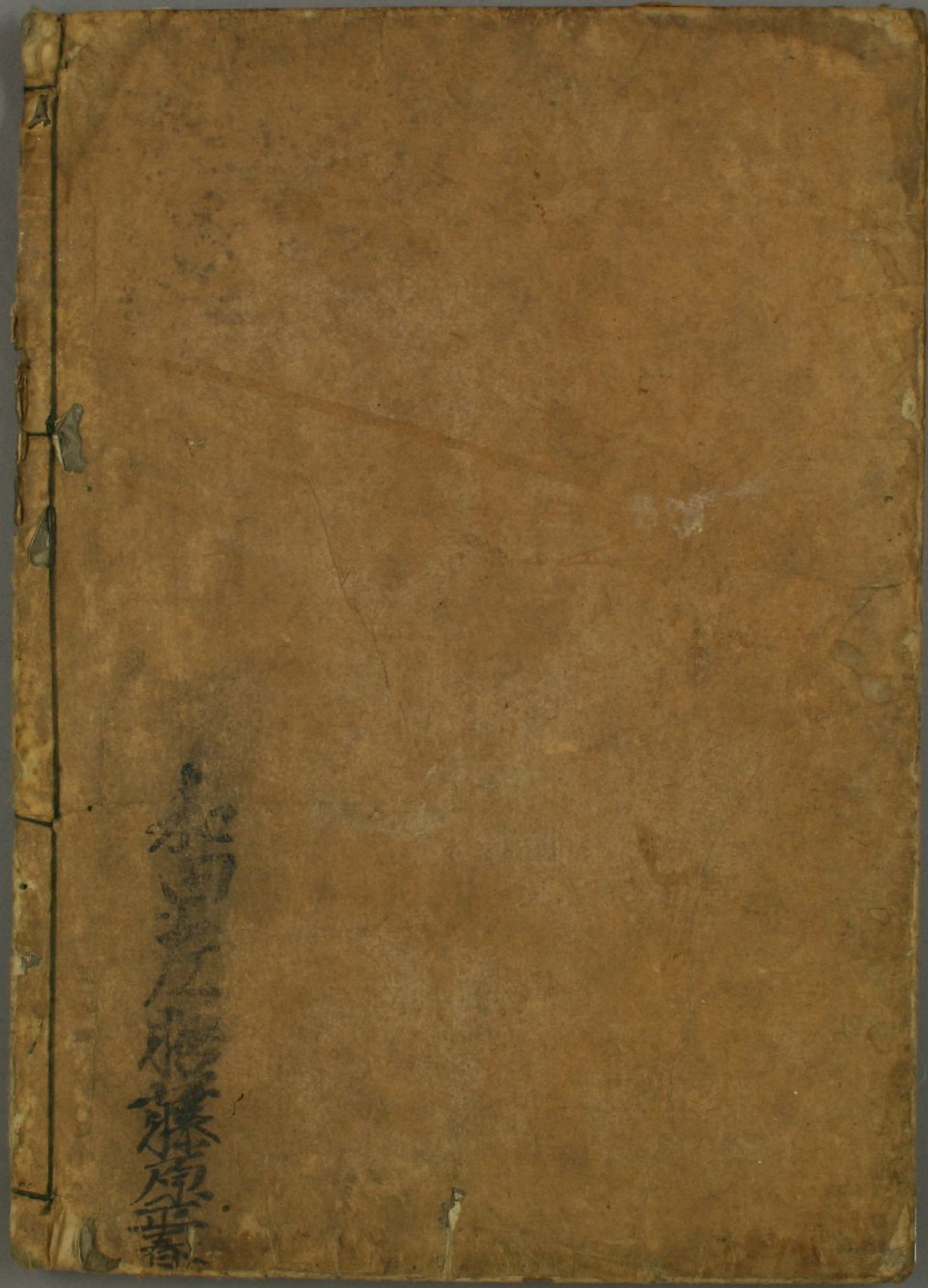
永享拾年

五月廿二日書之

藤原政晴

五
月
廿
二
日

4



密西法正應藤原著